

# 皆野長瀬ロータリークラブ

## 週報

- ◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
- ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
- ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内  
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134  
e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
- ◇点 鐘 宮前 英雄会長
- ◇ソング 奉仕の理想



人類に奉仕するロータリー

## 第1396回例会 平成29年4月27日(木)

### 会長代理挨拶

高田 富康

皆さん、こんにちは。宮前会長は体の調子がという事で、欠席になります。昨日連絡がありました。細かい事はわかりませんが、手術をしたようです。また23日の日曜日の地区研修協議会には、たくさんの方に参加していただきまして、ありがとうございました。



会長の時間という事ですが、私はこういう仕事をしているので、突発的な事が日々起きます。先日、3人の土木の小さな会社ですが、道路工事をしている、2トンのトラックを俣が運転していて、バックしたところ親父さんをひいてしまったという事故が起きました。命には別状が無かったのですが、埼玉医大に入院しているという事でお見舞いに行ってきた。俣さんと話したところ、バックにギアが入ると音が出るので、まさかいないと思ったらお父さんがいてという事でした。

私の仕事では、強制保険と対人保険に関わってきますが、対人という親子では出ないんです。対相手という事で、親子は相手ではないんです。3親等以内とか調べると分かると思いますが、労災も入っていない会社で、よく調べてみると社長が個人で入っている保険が使う事が出来た。労災には入っていないのですが、労災上乗せの保険に入っていましたので、それを利用する事も出来ました。

ケガの場合は、支払う保険ですが、定額払いと実損払いがあります。生命保険で定額払いは、1日入院したらいくら、通院したらいくら、死んだらいくらというものです。実損払いは、健康保険を使って、支払った負担分を保障するものです。実損払いは、その間仕事が出来ませんので、休業の損害、慰謝料です。通常慰謝料は、1日入院、通院でいろいろですが、4千数百円が慰謝料です。そういう2つの払い方になっています。自動車保険で言うと、対人無制限、対物無制限。あとは自分自身が乗っている車のケガで人身障害が入っていると思いますが、それは実損払いになります。無制限であっても、うちの母親は89才ですが、無制限であっても家族状況、収入が関わってくるので、それほど金

額は出ないという事になります。政治の場面でもいろいろな事で騒がしくなっています。いつ何が起きるか分からない時代なので、皆さんもお気を付け下さい。

続けて幹事報告させていただきます。

### 1. 地区事務所より

- ①RLIセミナーDL実践に向けての案内
- ②ガバナーズナイト開催の案内
- ③日本のロータリー100周年委員会設立趣意書
- ④学友会ニュース

### 2. 埼玉県腎・アイバンク協会総会の案内

### 3. 長瀬町子ども春季球技大会開催の案内

### 4. 金沢つつじ祭りの案内

来月のプログラム件ですが、5月25日の例会は清掃のあとに例会場で夜間例会の予定でしたが、この会場が利用出来ませんので、会場を変更して実施したいと思います。

## 会員卓話



山田 利明会員

趣味の話をしようと思いません。私の山の趣味の会の会報を持って来ました。

一番最初の会報を見ました。昭和47年創刊でした。登攀、よじ登るという意味ですが、秩父登攀会の創刊号です。1、2回途切れた事はありますが、

ほぼ毎年出しています。

日野の所長をやっていた石橋総一郎さんが会長会長だったのですが、創刊号にいい事が書いてあります。目的としては、山岳に関する高度な技術向上を目指したんですね。それと社会人としての心身と清浄の育成を目的としている。我々において、肉体的な訓練と勇気、冷静、判断力と様々な体力と精神のバランスを身につけなければならない。社会人としての常識的な物を身につけるという事も目的でした。

私が入ったのが、18才です。約50年くらい前です。それから山登り、最初の頃はほとんど岩登りです。私が創刊号に寄せた文章があります。昭和45年、19才の時に行った時のものです。懐かしいので読んでみます。

「昭和45年8月8日の夜行にて、わくわく、そして登れるのかどうかという、山に入る前の何とも言えない気持ちを抱きながら、新宿駅中央線のホームへと向かう」西武は開通していたと思いますが、夜の8時頃出ます。そして午後11時、12時の松本行きにあずさに乗ります。登山に行く人が多くて、電車が10両くらいで入ります。4つずつ座席がありますので、そこに座って行きます。いっぱいになると次の電車が来ます。10分おきくらいに電車が来ます。JRも非常に当時は親切でした。朝5時頃松本駅に着きます。「松本から島々電鉄へ、本で見たこの電車へ一度乗ってみたいと思っていたが、今こうして乗っている。バスへ上高地へ着く」大正池は、朝のうっすらとしたガスを湖面にたたえていた。人がこんなにも多くいなかったら、随分ロマンチックな所だと思う」上高地から涸沢へ歩いて行きます。上高地は観光地で人が多くて、そこからほとんど平地を3時間歩きます。「そんな訳で上高地を午前9時に出発」西武秩父を夜の8時に出て、次の日の朝9時に上高地を歩き出すという事で、電車バスを乗り継いで、それだけ時間が掛かりました。「青い芽をいっぱいに広げている木々の間を通り抜けながら、梓川をさかのぼって行く」8月は真夏ですが、まだ新緑です。約標高1,500メートルくらいあります。「荷物は18リットルの四角のどうこ」アルミの背負子に2つ積んで、ガスとか TENT を詰め込んで、その上にアタックザック、岩にアタックする小さいザックを付けて、その上にヘルメットを積んで、40キロくらいあったと思います。「明神に着いた。約40分の道のりである」そして徳沢園へ、梓川が清流で、その横に草原があって、その横に山小屋、徳沢園が建っています。ホテルになっています。いい所です。上高地から2時間掛かります。「徳沢から山らしい山へ入って行く」徳沢の次に横尾、3時間のちょっとした登りです。そこから山に入っていきます。そこから左側に5、6百メートルある屏風岩があります。「昼食を終わって、林の中をよちよち登って行くと、一本橋という場所で一息入れる。もうここは山の世界ですよ。本で見て、そして登攀会での講釈を聞いて、どんな所だろうと想像していた所へ今来ている。変な気持ち、そして今度は俺たちも講釈が出来きるぞと思う。まったく涸沢って遠いね。もう午後3時だよ」9時間掛かっています。3人で行ってそこに1週間いました。

「8月10日、快晴である。今日は縦走の予定だ。テント6時出発。涸沢の雪景色」真夏でも雪が谷筋にあります。そこに岩が所々出ています。涸沢から見て北尾根、前穂、奥穂、北穂があります。前穂が3千メートルの頂上だとすると、頂上が1だとすると2、3、4、5・・・と番号が着いています。歩いて行けるのは、5、6のコロと言って、5番と6番の谷の所を起点にするという事です。「5、6のコロへと向かう。5、6のコロへ出るちょっと前にお花畑がある」前穂高岳へ行って、ぐるっとまわってテントまで降りてきます。簡単に行けるので、私達は縦走と呼んでいます。左に上高地からの道が見えて、反対に涸沢が見えて、その間を登っている

のですが、岩山の途中に池があります。テントが張ってありますが、テントは赤や青ですから、すごい綺麗です。

「8月11日、今日はいよいよ岩場へのアタックである。アルプスへ来た本当の目的はここにあった。滝谷へと向かう」滝谷は、前穂、奥穂、北穂とありまして、北穂高岳へまず登って、滝谷をずっと降ります。5、6百メートル岩場を降ります。頂上から降りて、また降りて、滝谷の底まで行って、岩場の取り付けと言いますが、岩場を登るもとに行きます。岩場に名前がついていますが、クラック尾根を最初に行きません。「岩をなめてはいけませんが、登りよい岩だった。階段を登っているようだ。確かに練習よりは登攀距離は長い、快適だ。途中から半分はコンテにて登って」コンテと言うのは、2人をザイルで結んで登っていく事で、稜線を行きませんが、1人が落ちた時にその反対に1人が落ちるという事です。ザイルを10メートルくらいずつ離して歩きます。これがコンテという歩き方です。「北穂の頂の脇へと突き上げた。」そこにドームという岩がありまして、100メートルくらいですか。またそのドームを登って、一番の稜線に出ると。これでまたテントに戻ります。

「8月11日、北穂の頂上よりC沢へと下降」これは、北穂にまた登って、違う沢を降りると、また違う岩があります。「C沢へ下降。落石がひどい。尾根の取り付けへと行くと、先行パーティーあり。途中追い越して席に北穂の頂へ。30分休憩してドーム正面」ドームの違うルートに登って、稜線に出てまた降りてくる。

「8月12日、足も慣れたせい、快調、1時間半にて北穂の頂へ出る」5、6年前に北穂に行きましたが、3時間以上掛かりました。「滝谷に行くと、P2フランクへと取り付くと」だんだん難くなるグレードがあるので、P2フランクを登ってまた降りて来た。

8月13、14日は、また違うルートで登って、降りて来た。

8月15日は台風が来ていて、予定を1日早めて降りて来ました。

「アルプスの山は、美しく、その姿は透き通るような気持ちのいい、素晴らしい感じだ」という事です。

19才でしたが、登山はすごい高揚感があります。なぜ山に行くかという、登った後が非常にいい気分になります。充実感もあります。先週もこの会の総会を行いました。この会報も40冊以上になります。合角ダムが見える稜線でお昼を食べたりスケッチをしたりしました。

♪研修協議会では、参加者のために車を出して頂き、ありがとうございました。

高田 富康 小林 一夫 畝 徳治  
新井 通雄 長岡 倉雄

ニコニコボックス

合計 5,000円

出席率 75.0%